

射水市立歌の森小学校活動報告

◆活動取組の紹介

毎月10日はアルミ缶・ベルマークの回収

ボランティア委員会では、ベルマークやアルミ缶の回収活動を主たる活動として長年続けている。ポスターや放送で全校へ呼びかけ、毎月10日の登校後の朝に回収活動を行っている。その結果、全校児童が自分たちでできることに取り組もうとする意識を高めることができた。回収に協力してくれた児童には「ありがとう」とお礼を言いながらシールを渡し、色団ごとにベルマークのキャラクターに貼ってもらった。



毎月のアルミ缶・ベルマーク回収活動

ちょこボラ週間

ちょっとしたボランティア(ちょこボラ)を積極的に行う5日間を「ちょこボラ週間」として設定した。ボランティア委員会の児童が「気軽にできるボランティアを行おう」と呼びかけ、全校で取り組む活動として、数年間継続している。1日1回以上ちょこボラを行ったら、委員が作成した用紙にシールを1枚ずつ貼り、色付けをしていく活動である。2学期は「ちょこボラで秋の葉っぱをいろどらせよう」と銘打って活動を展開した。学級のもみじが次第に赤く色付いていくことで、自分たちの行動の結果が色に表れ、達成感を味わうことができた。週間終了後は、各学級の台紙を全校児童が目にする掲示板に貼り、温かな一体感を味わうことができた。

児童集会での発表

2学期に行われた児童集会の中で、青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加したボランティア委員3人が、活動を通して学んだことを全校に発表した。赤十字の基本原則を紹介したり、救急法を実演したりすることで、赤十字についての知識を全校に広めることができた。



集会で救急法について発表

◆活動していてやりがいや喜びを感じるとき(児童の声より)

- ・ ボランティア回収のとき、たくさんのアルミ缶やベルマークを持ってきてくれた人を見ると、「たくさん集まっていたよかった」と思った。放送やポスター等で呼びかけることで、たくさんの人が協力してくれている様子を見てやりがいを感じた。
- ・ ちょこボラ活動で、クラスの友達に声をかけたり、自分から進んでちょこボラをしたりした。用紙にシールがたまっていくのを見て、「ちょこボラ活動をやってよかったな」と感じた。これからも進んでボランティア活動をしていきたい。
- ・ 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センターに参加して、多くのことを知り、体験した。私は、手話を学んだことが心に残っていて、これからの生活に生かしていきたい。また、他の人にも、赤十字について伝えていきたい。

◆最後にひとこと

ボランティア委員会の児童の中には、ベルマークとアルミ缶の回収や、ボランティアのよさを伝える活動を通して進んで誰かの役に立とうと行動することができるようになった。子供たちと共に信念をもち、やりがいを感じられる心温まる活動に、今後も取り組んでいきたい。